

広報⁺
No.709
令和5年

いいたて

3
2023



令和4年度 いいたて村芸能発表



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

www.vill.iitate.fukushima.jp

目次 CONTENTS

- 2 話題「しみじみマスタープロジェクト」
- 4 特集1「広報に届いたエピソードから」
- 8 特集2「いいたて村芸能発表祭」
- 10 報告「福島大学食農学類活動報告会」
- 11 学びの広場「豆まき」ほか
- 12 飯館百景「『光の春』に」
- 14 ほけんとふくし「ゲートキーパー」ほか
- 16 いいたて便り
- 18 話題のパレット
- 19 村からおしらせ
- 20 いいたてDIARY／までの食卓
- 21 はなれていても／ふれ愛館だより
- 22 ふるさと資源 発掘図鑑
- 23 愛楽故郷味／ひとのうごき
- 24 ほっとNEWS／飯館言葉の達人



今月の表紙

「いいたて村芸能発表祭」で八木沢・芦原芸能保存会が披露した『八木沢の田植踊』。震災後初の復活の舞台でした。村内13地区の田植え踊りは休止中のものも含め県指定重要無形文化財に指定されています。披露後、保存会の高野進会長は安堵の笑顔を浮かべ、「喜んでいただけてうれしい。村の伝統芸能の継承のきっかけになれば」と思いを語りました。

村民が子ども達に伝える「凍み餅」のこと

いいたて希望の里学園の「しみじみマスタープロジェクト」

ごんぼっぱの栽培から
餅の編み込みまで！

いいたて希望の里学園前期課程の子ども達が、『しみじみマスタープロジェクト』に挑戦しています。

このプロジェクトで、1年をかけて取り組んできたテーマは「凍み餅」です。凍み餅に使う「ごんぼっぱ（オヤマボクシ）」については、3・4年生が、達人こと菅野哲さん（草野）に教わりながら、育苗、定植、栽培、収穫、乾燥をやり遂げました。

人の佐々木千榮子さん（佐須）や「食を考える会」の皆さんが指導役。ごんぼっぱは、柔らかく煮て何度も水にさらしアクを抜いて下ごしらえ。その翌週から前期課程全員による凍み餅づくりの本番です。ごんぼっぱと米粉・もち米を混ぜて蒸し、餅にしたら槌に入れて成形。数日後に、切った餅の編み込みにも挑戦しました。極寒の夜に先生方が外へ出し、みんなの特別な凍み餅がいよいよ完成です！

試食会にはオリジナル凍み餅も！



凍み餅達人の方々が調理をしてくださいました。

「みんなで作った凍み餅を、みんなで味わうのがとても楽しみ」と話していた子ども達。2月24日、お世話になった皆さんと、この凍み餅を味わいました。1年生が育てたサツマイモや6年生が育てたエゴマなどメイドイン希望の里学園の食材を組み合わせたオリジナルレシピの凍み餅も登場しました。

今月の話題
vol.33



しみじみマスタープロジェクト

飯館村の食文化を丸ごと学ぼう！

村の食文化や郷土料理を子ども達が体得する『しみじみマスタープロジェクト』は、「飯館村第6次総合振興計画」の提言が元になっています。事業名「しみじみ」の由来は凍み餅・凍み豆腐・凍み大根といった凍み加工品ですが、それらを発端に、さまざまな郷土料理について、素材の栽培・加工・調理までを体験から学ぼうというものです。「達人」から教わり自分達でやる子ども達の姿は、いきいきとしてとても頼もしいです。



昔はくず米を生かし冬の厳しい寒さを利用して作られていた凍み餅。工程が多い分、長年の経験に基づく達人のコツが随所に光ります。美味しさが生まれる過程をたくさん教わりました。写真は5・6年生。

父の残した木材を挽く

「もう仕事らしい仕事はしていないんだけど、ずっとここに通ってた」。星製材所の作業場で、利安さんは笑いました。集合住宅から戸建ての住宅へ、避難を続ける間に亡くなった父・利男さんが大事に残した木材を削り直しています。家具作りについて聞くと「家具という程でもない。台です。ハハ」と利安さん。「何かしてないと、おかしくなっちゃう。飯館に来て休んでいるわけ」。作業場にいると、知り合いが次々に立ち寄って行きます。

昨年移住してきた人が趣味で家具作りをしていると聞き、作業場の一角を時々貸しています。屈託のない利安さんの人柄が、新しい人も呼び寄せています。

そして今年、製材所裏の実家に使われていた木材も利用し、小さな家を建てることにしました。「製材した木で村の大工さんに建ててもらうんだ」。避難先を引き払い、夫婦でここに戻って来るそうです。

星製材所の宝物

星製材所の近所に暮らしていた方から、「星さんは移住してきた人と一緒に家具を作っているみたいだよ」と教えていただき訪ねてみると、この場所を大切にしている星さん夫婦の笑顔に出会うことができました。



星利安さんと妻の篤子さん(伊丹沢)。製材所(上飯樋)の作業場で。



気さくな星さんと打ち解け、製材所で趣味の家具作りをしている小野さんと澤田さん。右の素敵な棚も自作です。



木目の美しいテーブル。避難先の自宅には利安さんが手作りしたテーブルや棚がたくさん置かれています。

特集1 広報に届いたエピソードから

「広報いいたて」は、毎号たくさんの方のご協力をいただいて発行しています。快く力を貸して下さる村民の皆さんには、いつも感謝でいっぱいです。今年度の取材の中でめぐりあった情報や、広報担当に届いたお手紙を元に、日頃の感謝を込めて、4つの話題を紹介させていただきます。



地域防災センター駐車場の側に建つ『飯曾小唄』の歌碑。建立時は旧柔剣道場にありました。



平成22年の飯樋小学校運動会で『飯曾小唄』を踊る児童。手の甲に花を付けて踊ります。

飯曾小唄

昨秋の飯樋四区復興祭で『飯曾小唄』の踊りが披露されると、地域の方々から「運動会で踊っていた」「懐かしいなあ」と言葉がもれました。「残したいよね。広報にも載せてほしいな」。そんな声にお応えして、『飯曾小唄』にまつわる物語をお伝えします。



飯樋四区復興祭で踊る保存会の皆さん。小学校に教えに行っていた方が誘い合って練習。踊りを披露しました。



芸能発表祭で『飯曾小唄』を歌う歌手の藤田征人さん(右端)。CDも制作しています。

世代を越えて思い出をつなぐ大切な唄

「伊達へおりよか 相馬へ出よか
いっそ飯曾に 駒ひきとめて」と歌い出す『飯曾小唄』が誕生したのは、大館村と飯曾村が合併し飯館村が誕生する前年、昭和30年でした。当時の飯曾小学校に勤めていた成田真先生が作詞を、遠藤傳校長が作曲を手がけました。

唄は地域に愛されて根付き、およそ30年後の昭和59年には歌碑が建立されました。除幕式には約300人が出席したそうです。歌碑の背面には由来が刻まれ、「飯曾

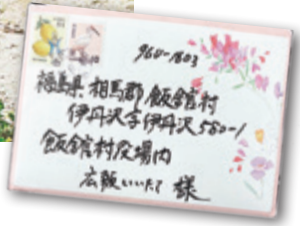
郷の四季折々の自然風物を乙女心に託し」描いた歌詞であり、故郷を離れた人は「望郷の想いをこめて口ずさむ」などと記されています。文面に、『飯曾小唄』への深い愛着が表れていますね。

合併後、飯曾小学校は飯樋小学校となり、『飯曾小唄』を継承。唄に合わせた踊りを運動会などで披露してきました。そして今、震災によるブランクを乗り越え、大切な唄を未来につなこうと、故郷の人々が『飯曾小唄』に想いを寄せています。





令和3年5月号



「希望をありがとう」
郡山市在住の菅野幹子さんから
お手紙をいただきました。「1年前
〳広報いいだて〳にのせていただいた
菅野です」という書き出しです。お
手紙が届いた前年、令和3年5月
号の表紙の撮影でお世話になった
方でした。撮影でお会いした観光
農園『飯館村フラワーガーデン』に、
翌年、母・和子さんと訪れた際のエ
ピソードを、写真と〳緒に送ってくだ
さったのです。

幹子さんは前年の花景色が忘れ
られず、母・和子さんと『飯館村フ



昨年の花景色。今春は残念ながら休止の情報が入っています。

花農園の小さな奇跡

広報取材の現場で出会い撮影に協力いただいた方から、その
1年後に心温まるお手紙をいただきました。出会った場所での
新たなできごとを伝えてくださるお手紙でした。素敵なエピソード
を皆さんにも共有します。

フラワーガーデン』にやって来ました。
和子さんは当時92歳。着いた時に
は疲れてしまい「車で待つていたい」
と言うので車椅子を借りたそうで
す。入園すると、その日は200円で
チューリップが詰め放題の日。和子さ
んは「このきれいなチューリップが詰
め放題？」と言うなり立ち上がり、
張り切ってチューリップを取り始め、
さらには「紫色もほしいな」と、車椅
子を押しながらスタスタと坂を登っ
て行きました。最後には袋がはじけ
る程たくさん取って大満足。車の中
で2人で大笑いしながら帰ったそう
です。今は、庭に植えたチューリップ
が花開く春を楽しみにしているとの
こと。お手紙は「年を重ねた人に希
望や夢を持つてもらうことの難しさ
を感じていた昨今。飯館での出来事
に感謝の言葉しかありません」と結
ばれていました。



自宅のリビングにて。菅野宗夫さんと千恵子さん(佐須)。

菅野家で「わらじぬぎ」

わらじぬぎ＝その土地に来て最初に世話になる家のこと

村の学校で学習指導に尽力してくださった会田完三先生が県
外の子どもを連れて学習旅行に来ているとか、香港からの留
学生が滞在して村の研究をしているとか、小耳にはさんでずっ
と気になっていた菅野家の交流の様子をお聞きました。

「出会いに感謝。私達こそたくさんさんのことを学んでいます」



帰還前後の村立学校で学習指導に尽力いただいた会
田先生。コロナ禍で中断した毎夏の訪問を再開の予定。



某大学の紹介で、留学中の香港の方が時々居候。村で研
究をしています。毎回「ただいま～」と戻って来るそう。

「思いは二つ。この地が元気に復興
できること」。震災直後から、宗夫
さんは、村に思いを寄せてくれる個
人、大学、研究者、さらには行政から
の依頼も含め、垣根なく受け入れ
てきました。「考え方も手段も十
人十色なんだけど、それは当たり前
だし、認め合って協力できれば」と。
近年は、さまざまな大学の学生
や県外の親子など、若い世代の訪
問も増えています。「次の世代に
なる人には、村で学び取ったことを
人生に生かしてほしい。うれしい
なあと思って迎えています」。

妻の千恵子さんも「楽しいよ、い
ろいろな人に出会わせてもらって。
私にできるのは何か食べさせるこ
とくらいだけ」と笑います。「学
生さんとかが、何年かすると、また
すーっと来るの。そういうつながり
になると本当にうれしい」。漬物
を出したり餅をついたり。温かい
けどよそゆきじゃない雰囲気、
実家のような居心地のよさになっ
ているのかもしれない。

菅野家でわらじぬぎをした人
が、また村に。縁が時間をかけて
紡がれていきます。



荒木 真さん(大久保・外内)

ポピュラーミュージックに乗せてバイオリンのソロ演奏。



プロビジュアル

圧巻の演奏。ドラムは「クマさん」こと佐藤祐喜さん(上飯樋)。



いいたて太極拳サークル

たゆまぬ練習で培われた優雅で力強い演武を披露。



ゲスト 荒木バマジックショー



■特集2

2月19日 交流センター「ふれ愛館」

いいたて村 芸能発表祭

令和4年度

「皆さん素晴らしい。元気をもらいます」。約130人の観客が、それぞれの熱演に大きな拍手を送りました。かつて田植踊を踊っていたという八木沢地区の方は、体でリズムを取り目を潤ませて復活の舞台を見つけていました。

震災後初めての開催となった『いいたて村芸能発表祭』。全村避難により継承が途絶えかけていた『八木沢の田植踊』が復活の舞を披露した他、さまざまなジャンルの音楽やフラ、太極拳などがステージを彩りました。



琴の会

交流センターで活動する琴のサークル。「荒城の月」他を演奏。



いいたてフラクラブ

練習拠点を村内に戻しました。息の合ったフラで会場を魅了。



飯館民謡同好会

50年に及ぶ会の活動の集大成としてステージに臨みました。



八木沢の田植踊 震災後初の復活披露。



ゲスト めおと楽団ジキジキ音楽漫才

こども園で豆まき 大きな鬼を退治しました

2月3日の節分の日、まていの里のこども園で、豆まきが行われました。3歳未満児クラスでは、新聞紙を丸めて豆に見立てたものを、クラスに現れた鬼に一齐に投げ、退治しました。3歳以上児クラスでは、「ひいらぎいわし」を飾り、火を通し「いった豆」を使用しました。豆をいる良い香りに包まれていると、照明が消え、背後から鬼たちが登場しました。驚きながらも懸命に豆を投げ、鬼たちは退散。自分の中に潜む悪い鬼を無事退治した子ども達からは、思わず安堵の笑みがこぼれました。



びっくりして泣いてしまった子もいた3歳以上児クラス。鬼を退治して、またひとつ成長できたかな？

希望の里学園前期課程 各教室で一斉に豆まき

2月3日、いいたて希望の里学園前期課程の児童が、各学年の教室で豆まきを行いました。この日の豆まきを企画したのは、5年生の児童です。前期課程の1～6年生が、校内放送と同時に、各教室で一斉に豆まきを開始しました。自分の中の追い出したい鬼を絵で表現し、そこに向かって豆を投げ、追い払いました。

また給食の時間には、5年生が豆まきの由来や豆まきクイズを校内放送で披露。児童が描いたそれぞれの鬼の絵は、学園の昇降口に掲示されました。



写真は今年の豆まきを企画した5年生の教室の様子。楽しみながら鬼を退治することができました。

1年生×老人クラブ連合会 つくった凧で凧揚げしたよ！

1月27日、学園の1年生が凧づくりと凧揚げに挑戦しました。毎年恒例の取り組みで、凧の先生は、飯館村老人クラブ連合会の皆さんです。

この日つくった凧は、「ビニール凧」です。子ども達は、空に舞い上がる姿を想像しながら、それぞれ好きな絵を透明なビニールの上に描きました。また、凧の先生に工程を教わりながら、竹ひごの骨や糸を丁寧に取り付けました。やさしい指導のおかげで、やがて全員のオリジナル凧が完成。雪が積もった校庭で、凧揚げを楽しみました。



手から手へ、凧づくりを教わりました。凧が仕上がるのと、いざ校庭へ！全力疾走で凧揚げを楽しみました。

福島大学食農学類 飯館村フィールド活動報告会

食農学類の皆さんは、2年次後期から1年半をかけ、「農学実践型教育プログラム」で、地域の食と農に関する課題に取り組んでいます。実践のフィールドは県内7市町村にあり、その一つが「飯館村フィールド」です。



2月16日、交流センター「ふれ愛館」で、福島大学食農学類・飯館村フィールドの活動報告会が開催されました。報告会のタイトルは『飯館村の地域資源を生かした賑わいづくり』。関係者の他、活動に関心を持つ村民の方々も来場し、学生の報告に耳を傾けました。

特産品を応援し知名度アップを図る 飯館魅力発見!班 第2号



ジャガイモ「イータデベイク」とカボチャ「いいたて雪つ娘」に着目して飯館村の魅力を発信しようと取り組みました。素材の分析や、特性を生かした料理の考案などを行い、パンフレットやリーフレットを作成。学内や村内のイベントで来場者に配布しました。

飯館村に「いいたね」時こう いいたね班



飯館村フィールド
Instagram

人を呼ぶことを目的とした情報発信、イベントなどを実践し、その効果を検証しました。目指したのは「知る・来る・また来る」の流れの構築です。若年層への情報発信にはInstagramが有力であること、来村のきっかけには「イベント・祭」が有力であることなど、調査結果を報告しました。

農地を活用し、新たな魅力を作ろう！ いいたて環境班2022



電気柵
チェック
シート

作付けしていない農地に「赤ソバ」を播種。景観作物としての可能性を探りました。またモデル農地でサルの侵入経路となっていた木を伐採。電気柵設置・管理のチェックシートも作成しました。菜の花の押し花を使った葉は、村の魅力発信に活用しました。

来年度(3年次)の活動に向けて 今年度後期から活動する2年生

飯館村の村づくりの歩みについて、学びを深めています。次年度に向けては、着目する製品の知名度アップ・賑わいづくりにつながる収穫体験会やマルシェの開催、さらには商品開発などのアイデアを温めています。考案した料理の振る舞いや村民との交流なども目指していくそうです。



報告の後の交流の時間



寒さが緩み雪が解けると、地面に張り付くように葉を広げた野草が現れました。中には小さな花やつぼみをつけているものもあります。2月下旬、まだまだ寒くなったり緩んだりの毎日でしたが、春への備えは確実に進んでいるのですね。

そんな中でも春の兆しを確かに感じる光景に出会いました。「まだ2月なのに」と思いますが、雪の下でも、大地は準備を進めていたようです。

大久保・外内地区の農地では、陽当たりの良い場所に、小さな花を見つけました。この日は寒さが緩んでひなたの雪はほとんどが解けていました。空にはトビ（トンビ）が舞っていて、「ピーヨロロ」と鳴いています。植物も動物も、春本番を待ち切れず、「光の春」を喜んでいるようでした。それは人間も同じですね。

間もなく山ではマンサクが咲くでしょう。桜は「大倉の桜」から咲き始め、「長泥の桜」まで、時間をかけて飯館独自の桜前線を描いていくでしょう。

野の花、庭の花が咲き乱れる美しい飯館の春、花の季節が、すぐそこまで来ています。

飯館百景

「光の春」に



並木の枝、銀白色の毛に覆われた冬芽（伊丹沢）。



雪が消え芝も久しぶりの日光浴（ふかや風の子広場）。



雪景色でも、空はほのかに春色。（前田・八和木）

「光の春」という言葉を聞きます。もともとは外国から伝わった言葉だそうです。徐々に日が長くなり、陽の光が少しずつ強さを増し、春の気配が感じられるようになる頃を指すのだそうです。

立春を迎え、「光の春」を迎えても、日によっては冷え込んでため池が真っ白に凍ったり、朝起きたらうっすら雪が積もっていたり。寒の戻りを繰り返しながら、季節は春に向かっていきます。

飯館村地域包括支援センターより

「地域サロン」をサポートします！

地域サロンで、栄養教室を開きました

2月16日、福島県栄養士会から管理栄養士の関場治美さんを講師に招き、関根・松塚行政区の地域サロンで「栄養教室」を開催しました。日本人は体質的に高血糖になりやすいことから、健康な身体でいるためには高血糖を予防することが大事。その予防のポイントを、具体的に教えていただきました。

血糖値の上昇を抑える食物繊維を摂る方法として、ボイル済みの豆や乾燥ワカメを食事に加えるなどのアドバイスがありました。スーパーやコンビニでよく見かける食品が例に取り上げられ、すぐに実践できそうな内容でした。

参加した方からは「大変参考になるよい話でした」「今回の内容を毎日の生活に役立てたい」との感想が聞かれ、食のバランスなどを改めて振り返る機会となったようです。



今回の栄養教室は、関根松塚集会所で開かれた地域サロンの中で実施しました

● サロン担当の本名さんに聞きました

老人会が主催して行われていた当地区サロンですが、ご年配の方々だけではなく「区民全員の憩いの集まり」とすることを目的に、4年前から行政区主催となり、月1回、第3木曜日に集会所にて開催するようになりました。

昨年は、コロナウイルス感染の状況により、8月・9月の2回が休止になりました。10月には久しぶりの県外旅行を実施し、親睦を深めました。健康や防犯などの情報提供や、俳句づくり、趣味の手工芸の共同作業など、有意義なサロンとなりました。今後もさらに多くの方に参加していただけるよう、また、情報の共有と笑顔づくりに貢献できるよう頑張っていきます。



本名洋文さん
関根・松塚行政区
お茶会サロン担当

写真は過去の
地域サロンから



村は、地域の皆さんが集う「地域サロン」を飯館村社会福祉協議会に委託し、運営を支援しています。コロナウイルス感染対策を十分に行いながら、各集会所で、介護予防の「いきいき百歳体操」や屋内外でのレクリエーション、情報交換、お茶を飲みながらのおしゃべりなど、楽しい時間を過ごし交流を深めていただいています。

現在村内8地区で世話人を中心として主体的に運営されています。新たに「地域サロン」立ち上げの希望がありましたら、飯館村地域包括支援センターまたは飯館村社会福祉協議会（☎0244-42-1021）までご相談ください。

問 飯館村地域包括支援センター ☎0244-42-1626

身近な人の悩みに寄り添う「ゲートキーパー」についてお伝えします

3月は自殺対策強化月間です

自殺はその多くが追い込まれた末の死であり、その多くは防ぐことができる社会的な問題です。福島県では、例年9月と3月を「自殺対策強化月間」と定め、自殺予防のための普及啓発活動に取り組んでいます。3月は就職や転勤、転居など、生活環境が大きく変動する時期で精神的負担がかかるため、月別自殺者数が最も多い月となります。自分自身や身近にいる人の「心の状態」に目を向けてみてください。

飯館村自殺対策計画

飯館村では、飯館村自殺対策計画を策定し、すべての村民が「自殺は、その多くが追い込まれた末の死である」と認識し、社会における「生きることの阻害要因」を減らし、「生きることの促進要因」を増やすことで、社会全体の自殺リスクが低い「地域でいのちを支える飯館村」の実現を目指しています。

＊生きることの阻害因子…過労、生活困窮、育児疲れや介護疲れ、孤独、いじめなど

＊生きることの促進因子…家族や友人との信頼関係、経済的安定、やりがい、自己肯定感など

ゲートキーパー養成講座を開催しました

自殺対策計画に基づく取り組みとして、2月3日、いちばん館で、『ゲートキーパー養成講座』を開催し、34の方に参加いただきました。講座では、福島県立医科大学・健康リスクコミュニケーション学講座の竹林由武先生に、ゲートキーパー養成研修「死にたい気持ちを受け止め、支援する」と題して講演をいただきました。

講演では、減少が続いていた国内の自殺率が令和2年に10年ぶりに上昇したこと、コロナウイルス感染症の影響が見られ、特に若年層と女性で増加していることなどを解説していただき、自殺者の心理に寄り添う話の聞き方、声のかけ方についても分かりやすく教えていただきました。

参加者からは、「相手の話をよく聞く“傾聴”の大切さを改めて感じました」「『“死にたい”は“本当は生きたい”』の項目の所で涙が出てしまい、助けてあげたいと思いました」「自殺する人の本当の気持ちをきちんと聞いてあげたい。自殺は予防できる」などの感想を寄せていただきました。



気づき

家族や仲間の変化に気づいて、声をかける。

もしかしたら悩みを抱えていませんか？

本人の気持ちを尊重し、耳を傾ける。責めたり安易に励ましたり否定したりは避けましょう。

傾聴

声かけ

大切な人が悩んでいることに気づいたら、一歩勇気を出して声をかけてみませんか。

つなぎ

専門家への相談を促す。

見守り

寄り添いじっくり見守る。

ゲートキーパー
の役割

ゲートキーパーとは、悩んでいる人に気づき、声をかけてあげられる人のこと。特別な資格は必要ありません。誰でもゲートキーパーになることができます。周りで悩んでいる人がいたら、やさしく声をかけてあげてください。悩んでいる人に寄り添い、関わりを通して「孤独・孤立」を防ぎ、支援することが重要です。ただし、難しく捉え過ぎる必要はありません。悩んでいる人に寄り添い、話を丁寧に聴くことは大きな心の支えになるはずです。また、困った時には、相談窓口や専門家の力を頼ることが大切です。

相談窓口

《飯館村のこころ・からだの相談窓口》飯館村健康福祉課健康係 ☎0244-42-1637

《被災者相談ダイヤル》気持ちが落ち着かず誰かと話したい時など専門の相談員が対応します。

ふくこライン ☎0120-783-295（平日9:00～12:00／13:00～17:00 ※年末年始は除く）

《厚生労働省 支援情報検索サイト》電話やSNSの相談窓口、近くの対面相談窓口等が検索可能。

※右のQRコードから「厚生労働省 支援情報検索サイト」▶



あだたら高原スキー場で スノースポーツを満喫！



さわやかな青空がゲレンデの上に広がりました。仲間と楽しむスノースポーツ、最高ですね！

あだたら高原スキー場（二本松市）で、2月5日、『スキー・スノーボード教室』を開催しました。コロナ禍の影響で2年続けて中止となっていたため、3年ぶりの開催です。スキーに29人、スノーボードに21人の合わせて50人が参加しました。

講師は「いいたてスキークラブ」の皆さんと「あだたら高原スキー学校」のインストラクターが務めました。レッスンは経験に応じたグループに分かれて行われ、それぞれコミュニケーションも楽しみながら、技術の向上に取り組みました。

北原彰さんを講師に 「花卉セミナー」を開催

1月26日、村とJAふくしま未来飯館営農センターの共催により、交流センター「ふれ愛館」で、北原彰さん（宮内）を講師に『花卉セミナー』が開催されました。北原さんは、那須塩原市（栃木県）に避難後、トルコギキョウなどの花卉栽培に取り組んでおり、JA職員時代の経験や避難先での営農の苦労、花卉栽培の基礎知識などを講義され、「今後も村の農業振興に貢献したい」と話されました。参加した花卉農家の皆さんは、収量や品質の向上に向けた講話に、真剣に聞き入っていました。



「県外花卉農家から見た飯館村の花」「トルコギキョウ栽培の基本的な事」の2部構成で講演いただきました。

大成建設株式会社から 寄附をいただきました



左から、鳴原新一長泥行政区長、杉岡村長、大成建設株式会社東北支店飯館作業所の清水義男作業所長。

2月20日、大成建設株式会社から村への寄附贈呈式を行いました。同社には、東日本大震災後から村全体の除染作業に取り組んでいただいており、これまでも、いいたて希望の里学園や道の駅までい館に寄附をいただいています。今回は、長泥地区の一部避難指示解除に向け、「長泥コミュニティセンター」に設置する電波時計2台を寄附していただきました。目録を受け取った杉岡村長は、「これまで長年、復興の基盤となる作業をしていただきました」と復興事業への尽力にも重ねて感謝を述べました。

令和4年度県原子力防災訓練 連携を強め防災技術を高める

1月27日、『令和4年度福島県原子力防災訓練』が実施され、国・県及びいわき市・田村市・南相馬市・川俣町・広野町・楡葉町・富岡町・川内村・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村・飯館村の13市町村と防災関係機関が、実践的な訓練を行いました。訓練では、浜通りを中心とする震度6強の地震が発生し、福島第一原子力発電所で使用済み燃料貯蔵槽の水位低下が確認された事態を想定。各機関が、体制の確立、連携、緊急対応などの訓練を、緊迫感を持って行いました。



写真は南相馬原子力災害対策センター。オフサイトセンター（緊急事態応急対策拠点施設）開設の訓練。

県広報コンクールで 「広報いいたて」2部門入賞！



村民の皆さんが主役の「広報いいたて」は、これからも村の魅力を発信し続けます。

2月17日、『第68回福島県市町村広報コンクール』表彰式が、福島県庁で3年ぶりに行われました。本コンクールには33市町村が参加し、応募総数85点のうち入賞は19点でした。今年1月に行われた審査の結果、「広報いいたて令和4年6月号」が、広報紙（町村部）で入選、同号の表紙が広報写真（一枚写真部）で佳作に入賞しました。

「広報いいたて」の入賞は、2年連続。震災後から数えて9回目の受賞です。これからも「広報いいたて」をよろしくお願いします。

NTTドコモから村へ 社員募金が寄附されました

2月9日、『NTTドコモ東北支社2022年度「災害復興等応援社員募金」村民の森あいの沢環境整備への寄付贈呈式』が行われました。今年度は、ドコモグループ約1万2,900人の社員の方からの募金が集まり、村への寄附は今回で3回目となりました。

式では、株式会社ドコモCS東北の高田博樹福島支店長から目録が贈呈され、村からは感謝状と村特産品を詰め合わせた記念品をお贈りしました。杉岡村長が「再生と発展のため、老朽化した施設整備に活用させていただきました」と感謝を伝えました。



NTTドコモには、全村避難中の「村民の声ネットワークシステム」でも多大なご支援をいただきました。

2022年の飯館村を振り返る！ 飯館村10大ニュース動画を公開

「あなたが選ぶ村のニュースベスト10」にたくさんのご応募をありがとうございました。応募総数511通の集計結果を基に、『2022年（令和4年）飯館村10大ニュース』のラインアップが確定しました。集計結果は広報いいたて2月号ですでに公表していますが、この10大ニュースを通して、飯館村の2022年（令和4年）を、皆さんと一緒に、より深く振り返ろうと発表動画を制作しました。

発表動画『2022年（令和4年）10大ニュース』は、動画配信サービスYouTubeの飯館村公式チャンネルで、2月20日から公開しています。ぜひご家族でご覧ください。



スマホやタブレットのカメラでQRコードを読み取り、表示されるリンクを指でタップします。携帯電話の場合は「バーコード読み取り」機能で読み取ります。※機能は機種により異なります。

またパソコンでも視聴できます。「飯館村10大ニュース」で検索を！



役場の若手職員が進行役。一緒に2022年を振り返りましょう！

2月の村の動きと主なできごと

- 3日・ゲートキーパー養成講座（いちばん館）
- 5日・スキー・スノーボード教室（二本松市・あたたら高原スキー場）
- 6日・新型コロナウイルス感染症対策本部会議（村役場）
- 9日・いいたてわくわく推進協議会（村役場）
- 14日～3月15日※土日祝除く・令和4年分申告相談（ビレッジハウス）
- 16日・福島大学食農学類 報告会（交流センター「ふれ愛館」）
- 19日・いいたて村芸能発表祭（交流センター「ふれ愛館」）
- 20日・新型コロナウイルス感染症対策本部会議（村役場）
- ・農業委員会定例総会（村役場）
- 21日・総合教育会議（村役場）
- ・定例教育委員会（村役場）
- 22日・いいたて希望の里学園 タウンミーティング（村役場）
- 25日・農業体験塾・キムチづくり教室（交流センター「ふれ愛館」）
- 28日・第6次総合振興計画策定委員会（村役場）

話題のパレット

水曜日は「雪カフェ」で

この冬、『村カフェ753』が週に1度の「雪カフェ」を開催。普段はテイクアウトで手作りのベーグルとドリンクを販売していますが、2月までの期間限定でイートインの日を設けました。お店のファンはもちろん、たまたま立ち寄った方も、大きな窓からブルーベリー畑の雪景色を眺めつつカフェ時間を楽しんでいました。雪カフェ限定のメニューも登場し、大人気でした。



2月1日はビーフシチューバーガーが登場。隣り合った人が会話をはずませ和やかな雰囲気。



チャリティー歌謡祭を開催



歌謡祭のフィナーレ。藤田征人さんの唄に乗せ「藤華新流澄美れ会」が舞踊『福島花見山』を披露。

高野澄子さん（前田・八和木）が副会長を務める「みちのく歌謡愛好会」が、2月5日、川俣中央公民館でチャリティーコンサート『春の芸能歌謡祭』を開催。高野さんが家元の「藤華新流澄美れ会」や歌手の藤田征人さん（前田・八和木）が代表を務める「征人ミュージック」が出演団体に名を連ね、川俣町の友好団体と共に、華やかなステージを繰り広げました。



横山梨沙さんの美味しい挑戦!

ラテアートやアレンジコーヒーを得意とし、飯館村地域おこし協力隊として活躍する横山梨沙さん（白石）。草野大師堂に移築された古民家で、何やら美味しい挑戦を始めています。現在は、仲間や知人を招いてテスト営業の真っ最中。桜の季節にはさらに準備が進んで全体像が見えてきそうですが…もはや気になる方はこちら▶



Instagram



大雷神社で「どんと祭」

2月12日、大雷神社で「どんと祭」が行われました。「どんと祭」は、正月飾りを焼いた際の「御神火」にあたることで心身が清められ、一年の無病息災・家内安全を祈願する、小正月の伝統行事です。この日は地域の方々や消防関係者が見守る中、澄んだ空気と青空の下、境内にオレンジ色の炎が燃え上がりました。

はなれていても

杉下文代さん（長泥 福島県福島市在住）



村では農家をやりながら菊池製作所に勤めていました。震災の時は川俣町のアパートに避難して、私はそこから職場に通いました。当時は、この先どうなるんだろう、いずれは戻れるのだろうか、と不安な毎日でした。

今は避難先にも友達がたくさんできました。パートの仕事も始めています。じっとしていると落ち込んでしまいますからね。プランターに野菜や花を作ったり、桶を外に置いて漬物を漬けたり。長泥のようにはいきませんから、工夫しながらの暮らしです。地元の集まりは、行政区でもありますが、班でも集まっています。地域で集まるのは震災前も楽しかったですね。声を掛けるとばーっと集まって年齢関係なく仲良くしてもらいました。運動会では班ごとにリレーをしたり玉入れをしたり。盆踊りの当番に

なると、軽トラの荷台で太鼓を叩きながら区内を回ったり。どうやったら盛り上がるかを楽しんでいました。私は生まれも育ちも長泥です。家は解体してしまいましたが、故郷はいつもそこにあると感じています。息子達の世代にも、小さい時に住んでいた大切な場所として、「帰りたい」と思ってもらえる場所であってほしい、そうなっていると思います。「ここで育った。じいちゃんばあちゃんがいんだぞ」って伝えてくれたらうれしいです。長泥で、次の世代やその次の世代の人が動き出してくれていると感じています。村が開いた行政区の説明会で、若い人が故郷への思いを発言してくれて、「長泥は終わらない」と思いました。若い人が何かをやるとなったら、応援したいと思っています。私達は前に進むしかないのですから。それぞれのいろいろな「前向き」を大切にしながら。

交流センター「ふれ愛館」だより

おすすめ図書を紹介します

暮らしに役立つ情報誌もぜひ活用ください

交流センターでは、暮らしに役立つ情報誌も貸し出ししています。

例えば、テストする女性誌として色々な良いもの良いことをまとめて紹介している「LDK」の別冊「冷凍保存 the best!」は、ためになる冷凍保存のテクニックが分かる1冊です。また、福島県の情報誌「CJモンモ」や女性に人気の「ハルメク」なども交流センターにありますので、ぜひ館内の図書コーナーへお立ち寄りください。

問 交流センター「ふれ愛館」

☎ 0244 (42) 0072



地域おこし協力隊 いいたてDIARY

ダイアリー

こんにちは!協力隊の大槻です。

「地域おこし協力隊」として着任してから早3年。3月末をもって任期満了となり卒業を迎えます。

地域おこし協力隊は、総務省が地方創生のためにつくった施策で、若者が地域に定住して暮らしを体験しながら様々な担い手になって全国で活動しています。

私は蠟燭(ろうそく)作りの技術を生かして飯館村に工房をつくり、様々な活動をする中で村の好きなところや大切な仲間が沢山できました。

これまで関わってくれた皆さん、数え切れないほどお世話になりました!この場をお借りして心から御礼を申し上げます。

そしてこれからも、飯館村民として変わらずよろしく願います。最後に一言…飯館村に来て本当によかったー!



今月のライター

飯館村地域おこし協力隊
大槻 美友さん

おいしい飯館! までの食卓

生産者の皆さんにおいしい食べ方を聞いてみよう!

タラの木の新芽。ほのかな苦みと香りが特徴。春を感じる山菜として人気の高い食材です。

タラの芽の巻



夫婦で協力して栽培しています

12月に畑のタラの木からほだ木を取って軽トラで運び、1月にハウスで伏せこみ。水を張って温度を取ると、タラの芽が出てきます。今年は早目に終わってしまいそうですが、また次のシーズンは工夫をして夫婦で栽培を続けようと思っています。おひたしにする時は、麺つゆに和えたおかかを添えます。肉やハムなどとさっと炒めてもおいしいですよ。



小林 千代子さん
(前田・八和木)

夫の丈二さんと栽培するタラの芽や野菜を道の駅などに出货しています。

ハダ木のタラの芽



きれいに伏せこんだ「ほだ木」から芽が出ています。



パスタにも合います

胡麻和えにする時は、胡麻を煎ってすり、砂糖・酒・味噌・醤油を加え、ゆがいたタラの芽を和えます。時にはパスタや味噌汁の具にも使います。



胡麻和え

天ぷらにする時は、小麦粉に米粉を少し混ぜて衣を作り、パリッと仕上げます。取れたては特に苦味と味わいがいいですね。



天ぷらで

■入札結果はHPで 広報紙上で公表してきた入札結果は、今年度分から、ホームページに掲載することとなりました。随時更新していきます。



飯舘村HP

萌芽の気に満ちた 如月のふるさと

第8回 杉岡 誠 村長の 愛楽故郷味

あいらくふるさとみ



2月は1年で最も短い月でありながら、さまざまな変化を感じる時期でもあります。2月の異名「如月」の読み「ささらぎ」の由来について調べてみると「衣更着さらに衣を重ね着する」や「気更来(陽気がさらに増す)」「来更来(さらに春めいてくる)」など諸説あるようです。いずれも、まだ寒さが厳しい中にも、春に向かってむずむずと動き出すものをうかがい、心待ちにする、また喜ぶ、そんな古の人々の機微を感じる言葉です。

また2月の別名に「木芽月(このめづき)」というものがありますが、「いいたて村芸能発表祭」「福島大学食農学類の活動報告会」「いいたて村タウンミーティング」など、まさしく木々の芽吹きを感じるような月でした。「八木沢の田植踊」の復活に感動をおぼえつつ、移住されてきた村民の方々による新たな音楽披露にウキウキしたり、村外や県外出身の学生さんが村の魅力を掘り起こし、磨き上げる活動の報告を聞きながら、より多くの村民の方々と交流しながら育っていく若者の将来像を想像したり、学園の6年生の提案発表に村の「希望」たる子どもたちの学びの素晴らしさ、可能性の大きさを感じました。

令和4年2月号に『梅花新たに開く旧年の枝』の言葉に深く思いをいたす月でもありましたと「言コメント」を書きました。また、まさしく多くの方々の想いと営みが育んできた「ふるさと飯舘村」に新たな花が咲こうとしている、そんなことを感じる令和5年2月となりました。

もう報道もされていますが、3月13日からは「マスク着用は個人の判断が基本となります」と国が周知を始めています。と同時に、3密回避、距離の確保、手洗い・消毒、換気等の「基本的な感染対策」には引き続き取り組みましょう、と言われています。足かけ4年間におよびコロナ禍で培ってきた「感染を予防する対策」は、私たちの財産であり知恵でもあります。「自愛」と「慈愛」を大切に「健やか」な日々を過ごしましょう。

ひとのうごき

誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の名前	行政区
ましろ 佐藤 茉白 ちゃん	優太さん 亜理沙さん	飯舘町



HAPPY BIRTHDAY!

(1月21日から2月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。

ひとのうごき 令和5年1月31日現在	
人口 今月(前月比)	1月1日～31日までの人口動態
●男 2,407人(－12)	転入 2人
●女 2,395人(－8)	転出 11人
計 4,802人(－20)	出生 1人
世帯数 1,806戸(－2)	死亡 12人
	(住民基本台帳人口)

おくやみ

氏名	年齢	行政区
鳴原 峯 男 さん	81	比曽
中島 利知子 さん	91	前田・八和木
北原 清子 さん	99	宮内
須藤 徳春 さん	89	比曽
星 節 さん	99	八木沢・芦原
西 正夫 さん	85	飯舘町
高橋 久子 さん	86	上飯舘
菅野 一義 さん	88	蔵平
高野 すみ子 さん	94	前田・八和木
原田 辰男 さん	82	深谷



ご冥福をお祈り申し上げます

ふるさと資源 発掘図鑑!



#あぶくまもちシュウマイ

あぶくまもちの特性を生かしたレシピの開発に協力する日本調理技術専門学校(郡山市)が、2月5日、併設する「ザ・キッチン・プラットフォーム」のイベントで飯舘村をPR。「あぶくまもちシュウマイ」の試験販売などを行いました。同校が手がけるこのシュウマイと「牛ころもち」は、3月19日の午前中に道の駅までい館でも試験販売の予定(各50パック)。

皆さんからの情報や投稿でつくるページです

どなたでも投稿できるコーナーですので皆さんも身近な話題をどしどしお寄せください!

飯舘村広報委員会(村づくり推進課企画定住係)
☎0244-42-1613



#フクロウ(不苦労)さん

「村民の森あいの沢」管理人の高野靖博さん、渡邊富士男さん(飯舘町)から、木工のフクロウ約100点をいただきました。「村を訪ねてくださる方のお土産に」とのこと。木肌の風合いを生かした愛らしい作品で、幸せを願って書き入れた「不苦労」の文字も素敵です。



1体ずつクリアケースに入っています。

村民広報委員 ふじおさんの



いいたて 宝さがし 第8回



元気でいること!

ある雪が降った日、青木公男さん(大久保・外内)を訪ねることにしました。電話をして近くまで行くと、飯野町の新居の通りまで迎えに出ていてくれました。

聞くと、令和2年に軽い脳梗塞で倒れ、数か月間入院されていたという公男さん。避難前は、自動車修理工場に勤めながら消防団訓練指導員をしたり、地域の手踊りに参加したりしていたとのことでした。中でも全村避難中に、行政区内の今までの生活の記録や記憶に残る思いなどを後世に残す必要があると考え、一軒一軒の家々や田畑を写真に収め、第12行政区の記録誌「おらほの風景」を編集委員長としてつくりあげたそうです。見ればなるほど素晴らしいものでした。昔の行事や手踊りの「おいとこ」(外内に伝わる伝統芸能)などの話をするときは、ゆっくり言葉を選びながら話してくれました。

妻・直子さんが淹れてくれたコーヒーをご馳走になりながら、直子さんが、病気をした公男さんを労る様子がとても優しく穏やかで、2人をうらやましくも感じ、そんな生活が2人の『宝』なんだろうな!と思いながら帰ってきました。

タウンミーティングが開かれました 6年生が村の未来に向け提案を行いました

2月22日、いいたて希望の里学園の6年生が飯館村の未来に向けた提案を行う「いいたて村タウンミーティング」が開かれました。6年生は「いいたて学」で飯館村の伝統・文化について学んできたことを基に「大雷神社の祭りから考える飯館村の未来について」と題して3つの提案を行いました。



村役場の第一会議室で杉岡村長や遠藤教育長を前に堂々と提案を行いました。

大雷神社の祭りをテーマに、村の未来につながる取り組みのアイデアを練ってきた6年生。「神社をめぐるスタンプラリー」「伝統芸能体験会」「キャラクターの開発と仕事づくり」という3つの提案を行いました。なぜそのアイデアを考えたのか、実現を通してどんな祭りに、さらにはどんな村になつてほしいのかを含め、しっかりと提案することができました。

杉岡村長は、「祭りを盛り上げさらには村をよくするためのアイデアに感動しました」と伝え、各提案について児童と語り合いました。6年生は今後、この助言等を取り入れて内容を深め提言書をまとめるそうです。



充実した意見交換ができました。最後に記念撮影。



電子機器を使い落ち着いた態度でプレゼンテーション。

伝統芸能体験会
やその発信が「村を知る」「村に来る」
きっかけになると
考えます。

Native Speakers 第23回

ネイティス・スピーカーズ
飯館言葉の達人たち

とんによげて
こっちゃきて

その
意味は…



スマホのカメラを
かざしてYouTube
で見てね

または検索で!

飯館村 YouTube



〈編集後記〉

●「いいたて村芸能発表祭」で復活披露された「八木沢の田植踊」をはじめ、村が未来へ残すべき伝統芸能が、苦難を乗り越え、少しずつ、けれどたしかに、継承への歩みを続けています。学校の子ども達が授業で学ぶ凍み餅も、伝統のひとつです。そうして受け継がれる姿を見ると、明るい未来が見える気がします。(菅野)

●広報取材で皆さんの言葉に触れる時、暮らしが、家族が、生き方が、ふるさとへの思いが、ずっと心に沁みてきます。一つとして同じものはない一人ひとりの物語が、目を凝らすと無数に見えてくる星のように、飯館村できらめいている…何だか泣きたくなってしまう…広報担当の役得ですね。(星)